

宮城県農業・園芸総合研究所が開発した 植物病害虫防除剤のご案内(特許取得) ～野菜類の病害・虫害の両方に効く微生物製剤!!～

*Lecanicillium*属菌(旧*Verticillium lecanii*)
に感染したアブラムシ類、コナジラミ類

菌株分離

害虫に対する効果試験を実施

アブラムシ類・コナジラミ類に
高い抑制効果を示す菌株を選抜

有望菌株

*いずれも *L. longisporum*

MG-VL-45

(ワタアブラムシ分離株)

MG-VL-101

(ジャガイモヒゲナガアブラムシ分離株)

キュウリうどんこ病に対する抑制効果

供試菌株	孢子濃度 (個/ml)	病斑数(ノ株)			防除価
		10月19日	10月26日	11月2日	
MG-VL-45(死菌)	1×10^6	0.7	0.2	0.3	99.7
無処理	—	29.9	75.7	91.3	—

試験規模:5株ノ区,3連制(表は平均値のみ抜粋),パイプハウスでの試験

散布日:2006年10月13日,19日,27日(計3回)

調査日:10月19日(1回目散布6日後),26日(2回目散布7日後),11月2日(3回目散布6日後)

調査方法:上位第3及び4葉目に発生した病斑数を調査し,11月2日のデータを基に防除価を算出した。

防除価=(1-試験区の株あたり病斑数の平均値/無処理区の株あたり病斑数の平均値)×100



イチゴ萎黄病に対する抑制効果

供試菌株	孢子濃度 (個/ml)	供試株数	発病度	防除価
MG-VL-45(死菌)	2×10^5	8	3.1	90.0
無処理	—	8	31.3	—

供試品種:とちおとめ 供試液散布:2007年5月11日,23日,6月5日(計3回)にイチゴ地上部に散布

萎黄病菌接種:当所保存菌株を5月25日にかん注接種 調査日:6月13日 発病度= $\sum(\text{程度別発病葉数} \times \text{指数}) \times 100 / (\text{調査葉数} \times 4)$

0:発病なし 1:小葉のわずかな奇形,黄化 2:小葉の奇形,黄化など典型的症状 3:株の萎縮,萎凋 4:枯死

防除価=(1-試験区の発病度/無処理区の発病度)×100



◎害虫のみならず病害防除にも有効

◎菌が死んだ状態でも病害抑制効果を発揮

本技術は、「植物病害防除剤」として特許を取得しています。(登録番号 特許第5455114号)
MG-VL-45株と101株は,それぞれNITE P-493, NITE P-494として,特許微生物寄託センターに登録されています。

宮城県農業・園芸総合研究所 企画調整部, 園芸環境部
〒981-1243 宮城県名取市高舘川上字東金剛寺1
電話 022-383-8130 FAX 022-383-9907